学校番号（13） 豊橋市立（ 牟呂小 ）学校

平成30年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

平成31年2月12日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
問題解決的な学習による「確かな学力」の育成（キャリア教育）	基礎基本を基盤とし，問題解決的な学習による「深く考える力」の育成	「わかる・できる」授業のために視覚支援を中心にした「基礎・基本」の定着を図るとともに，「体験」を通して学ぶ問題解決的な学習を展開し，自ら考え判断する場を設定し，その成果を評価する。	B	B	問題解決的な学習を推進するため，体験的な授業を多く実践した。５年生では社会科の授業において体験活動を単元の中心に据え，自らの問題として考え，わかり合っていく活動を進めることにより，生き生きとした学習に取り組むことができた。その結果，子どもたちから「授業が楽しい」という声を聞くことができた。また，基礎基本の定着を図るために取り組んだ漢字計算コンクールでは多くの合格者が出るなど一定の成果を収めることができた。	B	牟呂小へ来るたびに，子どもが落ち着いて学習できていることを感じます。 全体的には，子どもの学力の充実を図るために，先生方の指導法の工夫や努力に支えられた授業実践が，子どもたちの学力向上につながっていると思われます。	新指導要領の完全実施をふまえ，身に付ける資質・能力の向上を図るための取り組みを進めていきたい。子どもたちの力には，読解力や説明力が不足していると感じられる。基礎基本の学力として，これらの力を視点に加え，新たな取り組みを検討していきたい。 例として，身に付けるべき資質・能力の到達度評価を行ったり，授業研究での「わかり合える力の育成」を目ざす実践を行うなど子どもの力を向上させる取り組みを考えている。
思いやりをもって友達とかかわることのできる「豊かな心」の育成	「あいさつ」と「行事と道徳を関連づけた指導」による「豊かな心」の育成	「あいさつ」を生活の基礎基本と考え徹底をしていく。人との関係づくりや思いやりの心を育むために，音楽発表会をはじめとした行事を道徳と関連付け，子どもが考え成長できる場とする。	B	B	昨年度に比べ，すすんであいさつができる児童が増えた。シルバークラブの方の協力や児童がキャンペーン活動を行ったりし，子どもたちの意欲が高まった考えられる。 各学年，行事に合わせた道徳のカリキュラム編成を行った。運動会では，友達同士で協力する姿が多々見られ，友達との関係作りが良好に行われた。音楽発表会では感謝の気持ちや生命の大切さ，自己の成長などを表現した。行事を通して豊かな心を確実に育むことができた。	A	あいさつに関しては，昨年に比べ，できるようになっている。中には，「頭を下げてあいさつしてくれる子もいる」と地域の方からお褒めの言葉をいただいた。行事にも真剣に取り組む姿が印象的で，特に，音楽発表会では，思わず涙するほど感動的であった。今後も牟呂小の良い伝統として続けていってもらいたい。	校門であいさつをして登校する児童は増加したが，学校外では，すすんであいさつができる児童は少ないと感じる。さらに校内ですれ違ったときなど自然にあいさつができる児童は少ない。道徳の授業や学校生活全般の指導を通して，自然に誰とでもあいさつできるようにしていきたい。また今後も，シルバークラブの方など地域の方の協力も得て，子ども一人一人が成長できるように活動を継続していきたい。 職員一同「行事を通して子どもたちが成長をする」をテーマに，地域の方の協力もあり，行事を成功させることができた。その結果，子どもたちの大きな成長がみられた。来年度はさらに他教科とも関連付け，子どもの意欲を高め，さらなる成長ができるように取り組んでいきたい。
体力の育成と不登校の未然防止・早期対応に重点を置いた「たくましさ」の育成	体育，外遊び，部活動の充実による「たくましさ」の育成	体育，外遊び，部活動等の活動を充実させ，子どもの意欲に重点を置いて，計画的に体力向上を図る。	A	A	朝のマラソンタイムの１０分前から，児童から募集したリクエスト曲を運動場で流し，音楽に合わせて楽しく体を温める取り組みを行った。多くの児童が積極的に運動場に出て走ることができた。その結果，マラソンタイムでは，「寒いのが嫌だ」「つまらないし，疲れる」といった児童の気持ちを少しでも減らすことができたと考える。 悩みを抱えていたり，学習に気持ちが向かず，足が遠のいている児童について，話を聞いて，気持ちに寄り添うことができた。また，担任だけで抱えずに全職員で共通理解し，外部機関とも協力することができた。	B	市内駅伝大会２位，ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ男子３位，ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ女子３位と部活動の活躍が目についた。最近の子どもは，肩が弱い。今後も，走る力，投げる力に重点を置き，子どもの体力向上に尽力していただきたい。 外国籍児童が増える中，地域や保護者，教員がともに連携し合い，アンテナを高くし，早期発見対応をお願いしたい。また，学校公開日などで，上の学年の子が下の学年の子の世話をしている心温まる光景を幾度か見かけることがあった。	行事に向けて，一生懸命頑張るという姿はとても多く見られたが，それに比べて行事以外の時期にすすんで外で遊ぶ児童は減ってしまうように思う。そこで，体育倉庫の道具を自由に使えるようにすることや，毎授業の始めに基礎体力の向上を図った自校体操を学校全体で取り組むように考えていきたい。 心に疲れを感じている児童が複数おり，不登校児童の数では，昨年度より増加してしまっている。新たな一人を出さないように引き続きあたたかい教室環境をつくるとともに，学校に再び登校できるように，外部機関とも協力しながらサポートをしていく。
	不登校の未然防止・早期対応に向けた取り組み	不登校や学校不適応等の未然防止・早期対応のため，保護者や外部機関との連携体制づくりに全教職員で努める。	A					
命を大切にする心と危機回避能力の育成	危機管理マニュアルの見直しと安全教育の手引きの活用を図るとともに生活ｱﾝｹｰﾄ，面接による児童把握と温かな集団作り	実際を想定した校区防災合同訓練と危機管理マニュアルの見直しをすすめる。	B	B	危機管理マニュアルをもとにして，避難訓練などを行ったことで，緊急時の役割分担など確認することができている。 子どもたちの心の状態を把握するために，毎月アンケート調査の実施とその後の面談を行った。普段明るくふるまっている児童でも，事前に，悩みを抱えて過ごしていることがわかり，初期対応を適切に行うことができた。また，いじめの認知件数は昨年より大幅増加となった。しかし，内容は，軽微なものに終始し，重大事案は認知することはなかった。	B	温かい学級作りが基本と考える。今年，図書ボランティアで学校に足を運ぶと，読み聞かせが非常にやり易かったです。担任の先生の学級経営がうまくいっているおかげだと思います。牟呂の子は，優しい子が多く，思いやりもあります。今後もいじめのない学級作りに尽力されることを願っています。	今後も，校内危機管理マニュアルを年度ごとに見直し，更新していくことで重大インシデントが発生した場合に能動的に対応する教師集団を学校体制として作っていくことが望まれる。 安全教育の手引きに関しては，行事やタイミングをとらえ，安全主任から積極的に提示したり，月間の取り組みとして提案したりしたい。 また，積極的に外部の協力者に指導を仰ぐことで専門的・多面的な視点で安全教育に努めることができるようにしていく必要がある。 アンケートや面談を確実に行うことで，アンテナを高くし，いじめにもしっかりと向き合うようにしていきたい。また，異質を排除しない人間関係作りを意識し，エンカウンターなど心を開ける活動を多く取り入れ，温かい集団つくりに取り組むようにしていきたい。
		いじめが起きにくい温かな集団づくりに努める。	B					
信頼される教職員集団の育成	教師の力量向上と心身ともに健康な教職員の環境づくり	発達障害の理解を深める研修を行うとともに，ＯＪＴを機能させ，授業や学級経営等の年配職員から後輩職員への伝承，また，若手同士での学び合いを活性化させる。	A	A	現職研修における取組として，児童理解や学力向上のための研修を実施した。外部講師を招聘して，発達障害講座や授業研究講座を行うことにより教職員の力量向上を図った。学年団での研修を多く実施し，身近なところでのＯＪＴとして研修を深めた。 管理職と教員とのつながりは，管理職による積極的な声掛けを実施することにより，学級・学年の状況を的確に把握し，迅速な対応をすることができた。	A	若い先生が年々増えている。学年主任の先生や管理職の先生方でフォローし合って，若い先生がつぶれないような温かい環境作りをお願いしたい。	現職研修では，全体だけでなく学年団での研修を実施したり，年齢別の研修を実施したりすることを考えている。特に，若手が増えている昨今，年齢別研修により，若手の力量向上を図ることが重要であると考える。 学校問題対応については今のところ，管理職と教員のパイプが太く，問題がこじれる前に組織的に対応することができているので，この現状を来年度も継続していくことが重要だと考えている。今後も，報告を待つばかりでなく，お互いが早期に問題を発見対処し，情報を共有する体制をつくることが大切だと考えている。
		必要に応じた管理職の声かけや面談によるタイムマネジメントの意識化と，何でも話せる職員室づくりに努める。	A					

【自己評価　A:十分に達成されている　B:概ね達成されている　C:あまり達成されていない　D:ほとんど達成されていない】
【総合評価　自己評価をもとに 上記のA･B･C･D で評価】
【関係者評価　A:適切である　B:概ね適切である　C:あまり適切ではない　D:適切とは言えない】